

紀伊國名所圖云

六之卷下
那賀郡

ル 4
1833
10



凡 4
1833
10

中村



紀伊國々所圖會卷之六下目錄

九頭神社 天徳宮 孫日大徳院 一葉の松
 赤木彦林法 地持平天徳皇太子御 藏王権現社
 光恩寺 赤玉権現 曼多羅寺 彰堂 八幡宮
 金谷藏王権現 若宮大社 伊太波宮 八幡宮
 秤石 伊太波宮 前王子社
 田村麻呂毒蛇退治山王神社 伊太波宮
 栄福寺 圓柏樹 拾岩
 大國津龜神 佐伯神社
 八王子社 旗井 荒田神社
 根來山 白山大権現
 信貴石 愛宕権現
 實相院 地藏堂
 辨財天社 正智院
 令鳥石
 洞山廟 子守林 勝手林 蛭見林
 田村將軍塚 炮術家 種
 大寺姫神社 五智居墓 御船神社
 菩提峠 樂靜院 鼓谷 莊嚴院
 藥師寺 おんすいじん
 大槌林法 おんすいじん
 林泉 おんすいじん
 明良觀音寺 おんすいじん
 日延藏王権現 おんすいじん
 吉田山王行 おんすいじん
 大和神社 おんすいじん
 正福寺 おんすいじん
 住寺が池 おんすいじん
 女人堂不動 おんすいじん
 慈光院 おんすいじん
 岡伽井 おんすいじん
 箱荷神社 おんすいじん

中村

十輪院跡 密巖院
小池坊跡

柳廟 利益院

大傳法院 尊勝佛頂 護摩堂

光明會道場 虛空藏 觀音堂

荒神社 龍王社

三部神社 伊太祈曾社

正等院 寶幢院

蓮花院 車留石

蓮生院 寶積院

放光院 福壽院

杉の坊 瑞巖院

愛津院 寶生院

大門跡 金佛不動

錐鑽不動尊 來迎之嶽 德藏院

觀音堂 一乘山

大塔 弘法大師堂

骨堂 九社神社

圓明寺 智積院跡

經藏 中性院跡

閑院 地藏院

地蔵院 金剛院

徳蔵院 柳船山

柳船山 柳船神社

柳船神社

加須神社

三毛村にあり相懸の村にあり武の村白山村を合祀する

當分の紀三毛麻呂の遺達ありと人別三毛麻呂八上宮

を子の臣より守屋大は瓜討りありと守屋の共入

ちりき

柳池山法界院薬師寺 柳池山法界院薬師寺

柳池山法界院薬師寺 柳池山法界院薬師寺

柳池山法界院薬師寺 柳池山法界院薬師寺

柳池山法界院薬師寺 柳池山法界院薬師寺

柳池山法界院薬師寺 柳池山法界院薬師寺

柳池山法界院薬師寺 柳池山法界院薬師寺

柳池山法界院薬師寺 柳池山法界院薬師寺

柳池山法界院薬師寺 柳池山法界院薬師寺

柳池山法界院薬師寺 柳池山法界院薬師寺

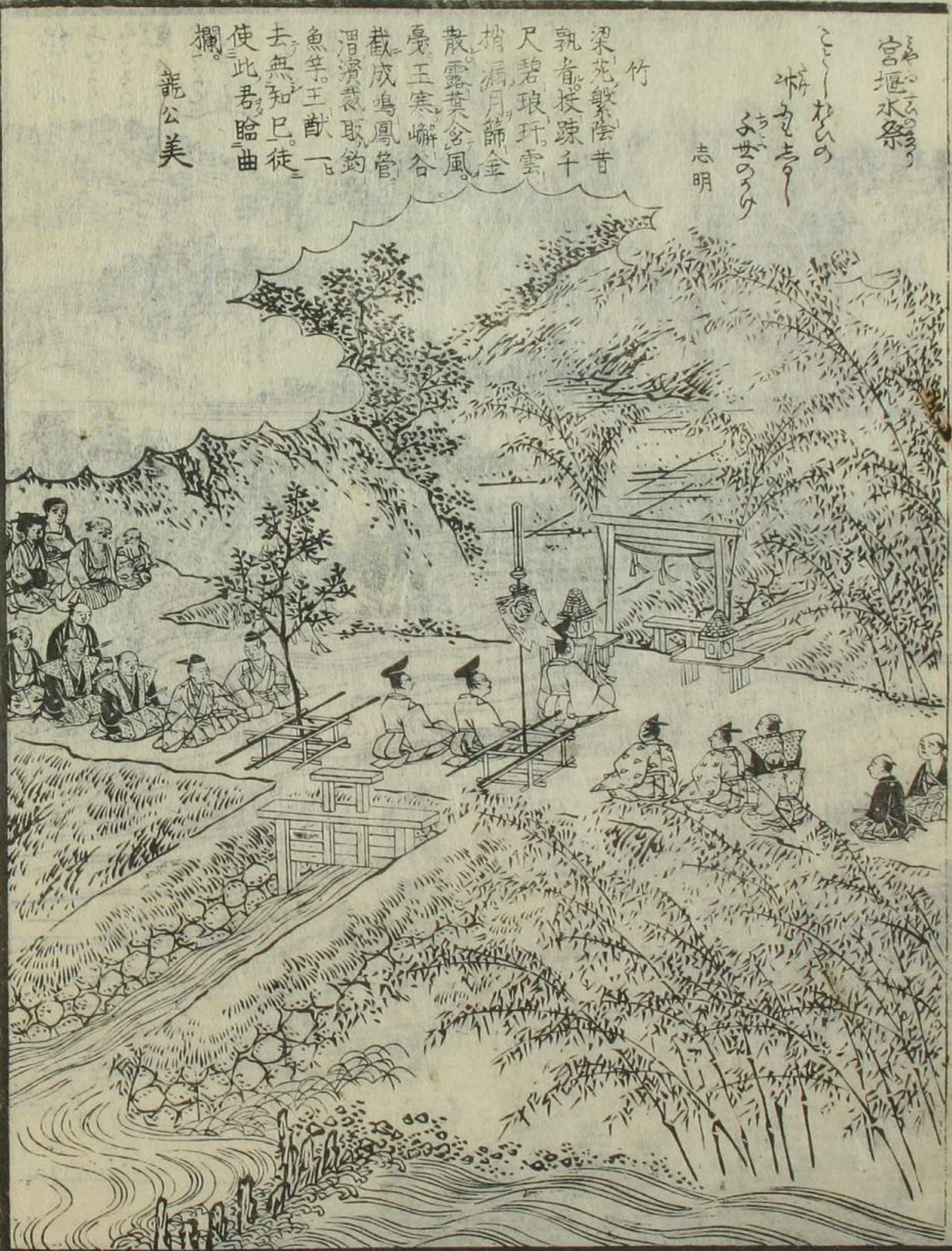
柳池山法界院薬師寺 柳池山法界院薬師寺

柳池山法界院薬師寺 柳池山法界院薬師寺

宮堰水祭

竹
志明

梁苑繁陰昔
孰龍投疎千
尺碧琅玕雲
梢漏月篩金
散露葉含風
慶王寒嶰谷
截成鳴鳳管
涓涓裁取釣
魚竿王猷一
去無知已徒
使此君臨曲
欄
龍公美



141

藏王権現社

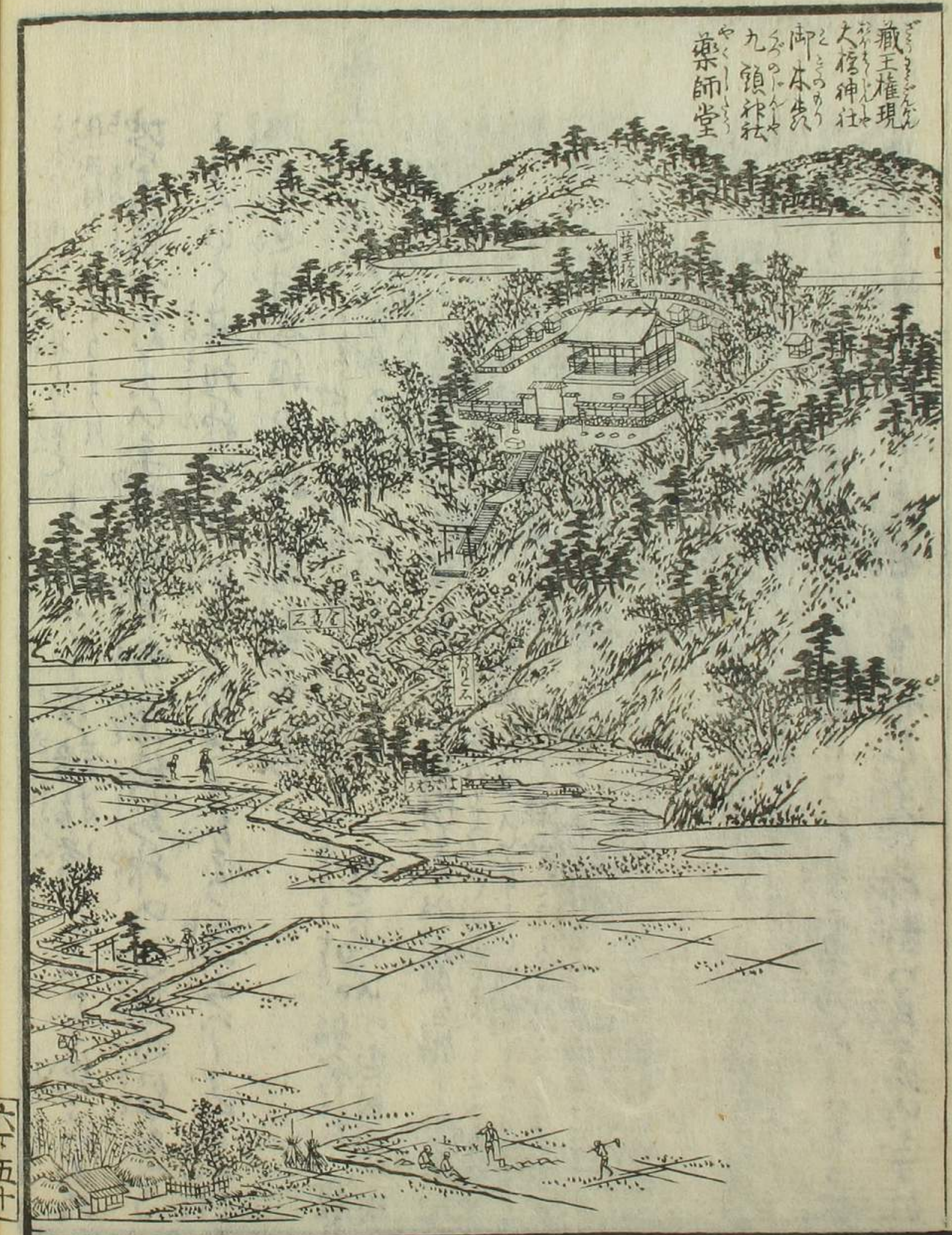
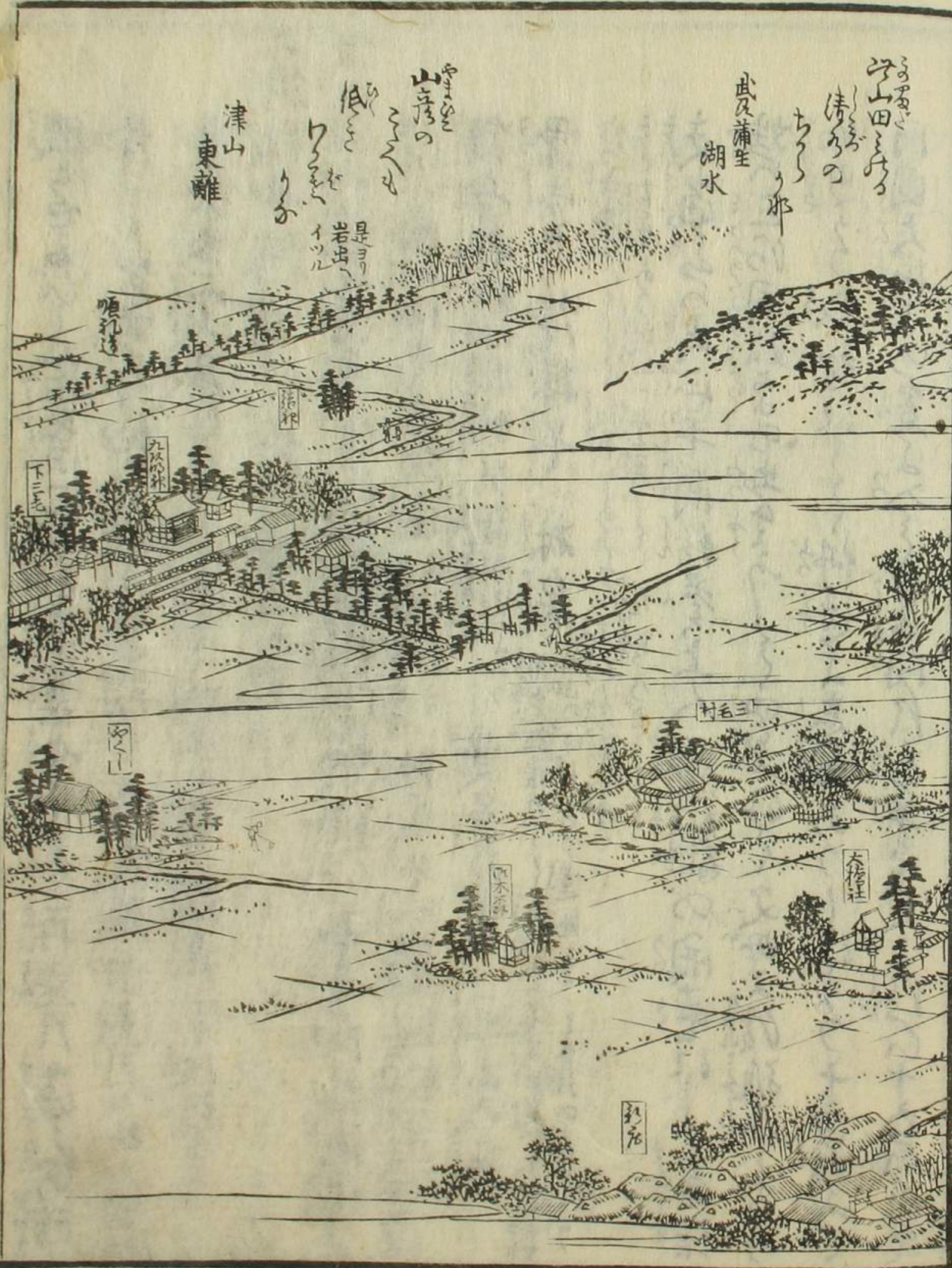
小倉の村南三町山の半後にある
藏王権現社の生土社に於て九月十二日

金鳥石

此の石は金鳥石の遊鳥の石

地天富令わび手置帆員今彦校知仲の子孫の位へ入る
とらひく其社社と拜祭したるつらつらあつとつとつとつとつ
郡井辺村馬野里社社の勢よも

杖石
一歳のを發まかひく鳥有るもたたまふ社影の民かの手に



渡らるゝを寛永三年里老集會し再建凡ふの形
勝とて山あり此の川は流き清く後六翠巒あり其の
奇名惟石山巔のありて幽鳥の林にありて寂莫なる池あり

大橋神社 日勝大橋村 池林 波止土堂

懐兵三法師光恩寺

此寺の住持村長あり 本寺阿弥陀佛

用山信譽上人の像

七二尺二寸 池藏堂 用山の廟

鎮守ね

天竺皇太后神 曼多羅堂

骨堂

待橋堂 林泉 用山の廟

夫由つて天二年間信譽上人

の困甚しく 父母の遺孤子あり

姓のこの国なるの出せしむる四父はく父母の遺孤子あり

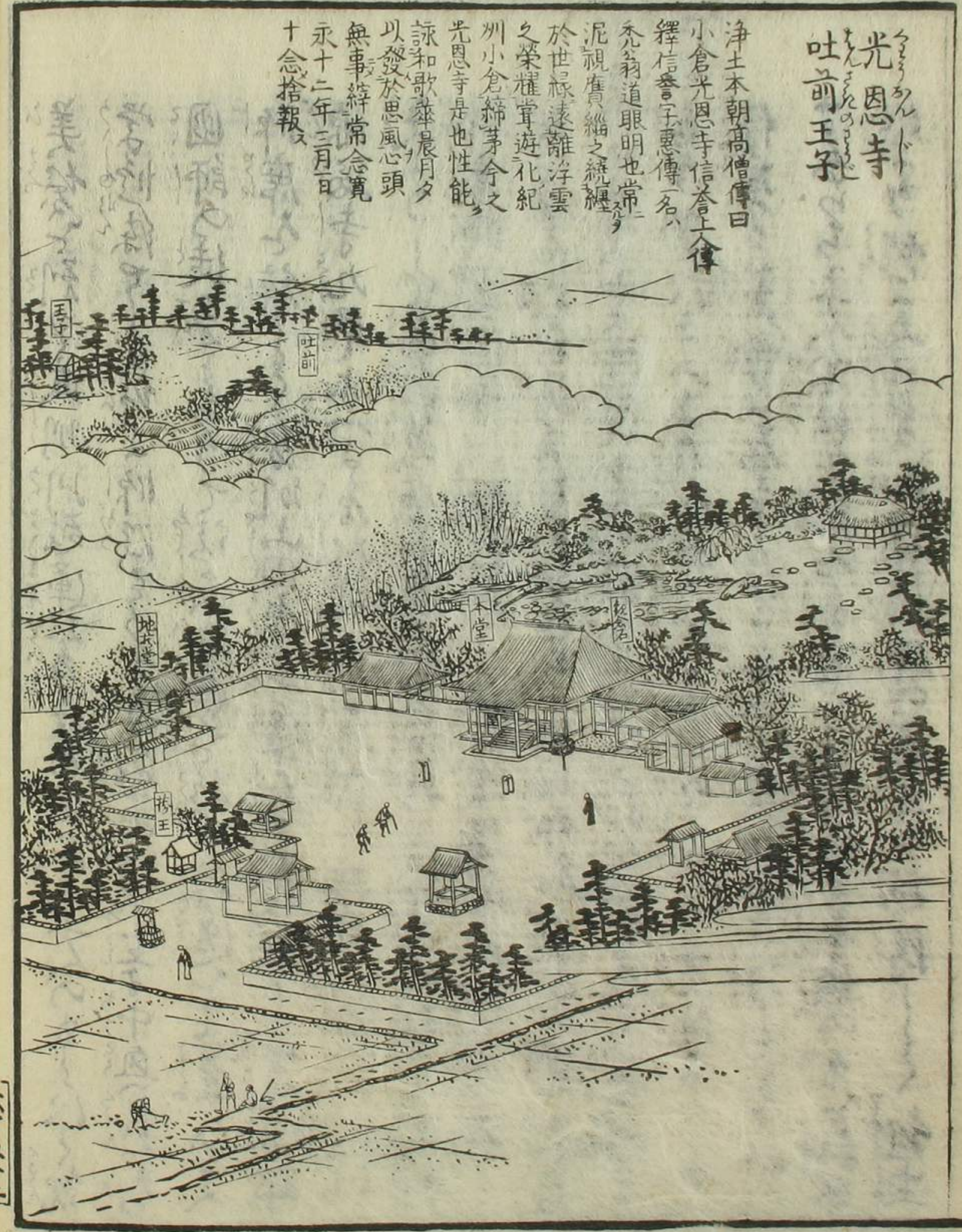
幼少より教習しし件は志願ありしより十歳より

日圓大樹の室に入りて修行せしむる間

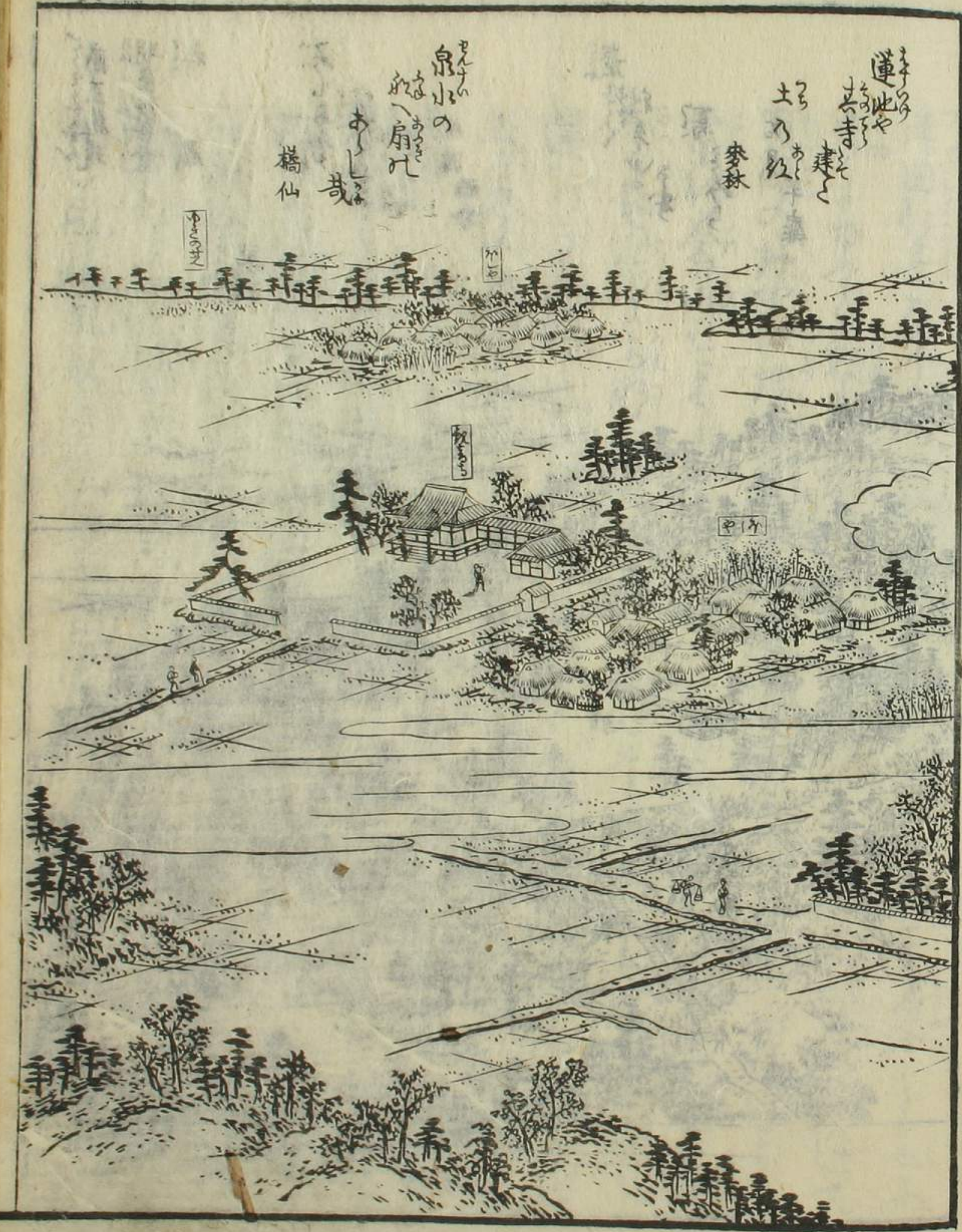
美譽を別て武州川越蓮華寺の圓を上人のゆゑに親
学修練せしむるは修没するより江戸場と寺中興修
圓師の徒等ありて法宗秘藏を授け侍送せしむる又
作席を拜しし武州山田原普道とて修威し此の日取
源後寺九卷上人の名に戒名廣式を授け
支つて苗国世所山権現の寺ありし下向のむる名州
即宮前美徳寺に修したるは其後諸国を経過の志し
ありし大和の山ありしは日取の山ありし其の山あり
あり見たまふと古きありしをその家の靈地ありとて
備ふる茅舎ありしは其の山ありしに請ふる山あり
すありし上人念仏を勤め戒を弘め他力奉願の志と教宗
にありしは日取の山ありしは其の山ありしに請ふる山あり

光恩寺
吐前王子

浄土本朝高僧傳曰
小倉光恩寺信蒼上僧
釋信譽王惠傳一名
禿翁道眼明也常
泥視實繼之繞纏
於世極遠離浮雲
之榮耀嘗遊北紀
列小倉締茅今之
光恩寺是也性能
詠和歌華晨月夕
以發於思風心頭
無事辯常念寬
永十二年三月日
十念拾報



蓮池
寺
土乃
麥林
泉水の
船扇
葛仙



藏王権現
明良親善堂
神石

其二



松津
西吟

巖

石見
羊麻

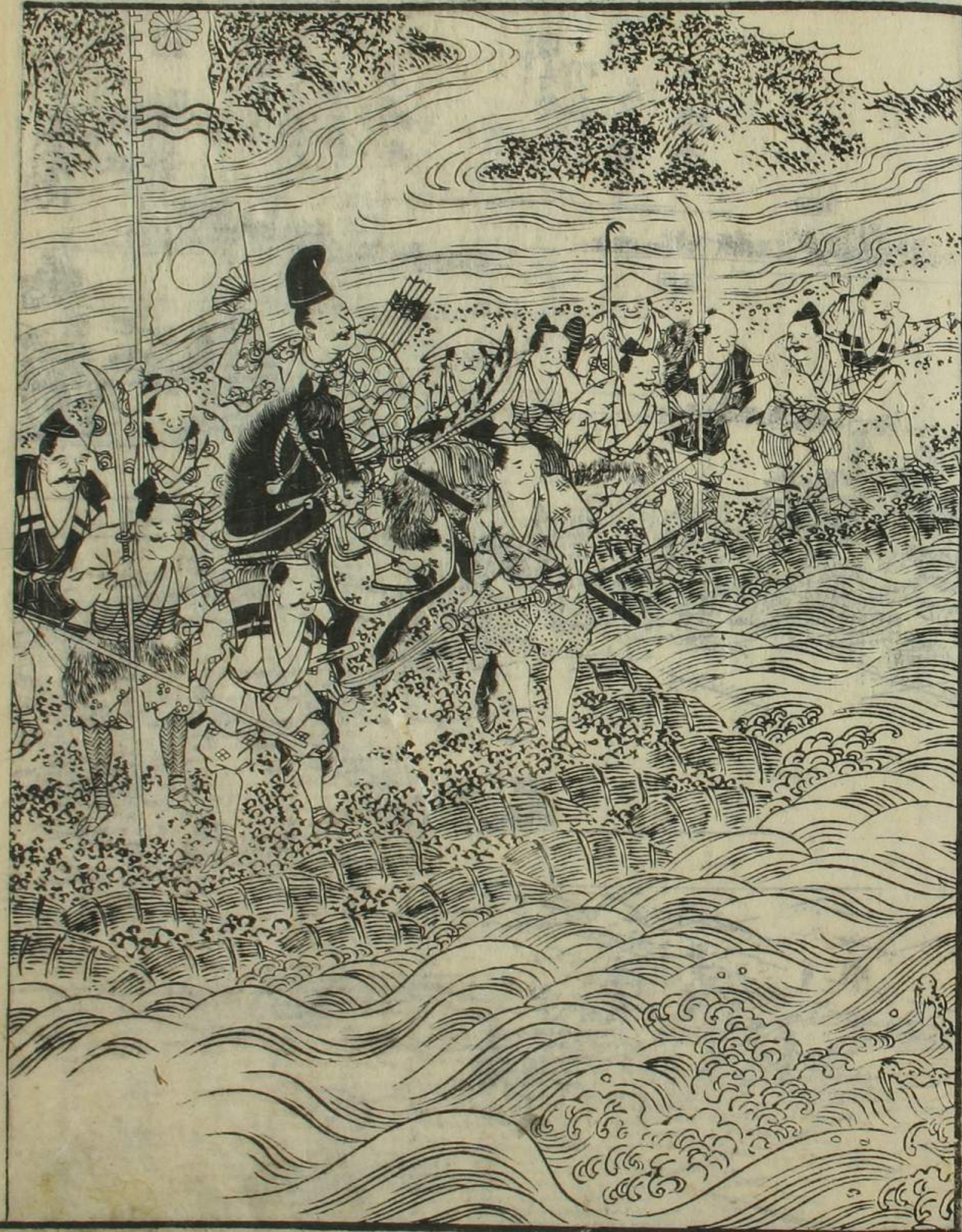
津田は米をふるの心一致し〜終つてをを建し〜愛ふ
止つて〜牧場の小山に集ち〜つと〜二部迄はて
肉陣の地中に埋布履戒の道場と日十九年月廿より
常行念佛と〜せらるるあに七ヶ年の間勤行〜なまらそ
ち長崎の地よりおが郡於川清見寺の後や〜中興〜
運り〜改修運り〜護りおが郡於瀧崎寺日
五ヶ年〜再興〜古や〜方ち〜麻護念院も
草創〜石川濱田虎若寺銀山〜福ら〜再興〜雲川
松江の信樂寺〜
月圓誓願寺に〜伯州米菴信〜
に極〜後〜寺と建〜
ま〜因幡国取為信樂寺と因巻〜九連展十二子〜



鳥銃
南方一戎器
奇巧實神哉
握裏飛輕電
面即鳴迅雷
揚竿首露外
雁隨碧雲限
好是威天下
千秋護聖臺
山良由



津田監物美長
根來寺枯の竹
日暮長つみき
種々ゆき
沢泡得る
自昔年
根の
ハハ世の
宗低



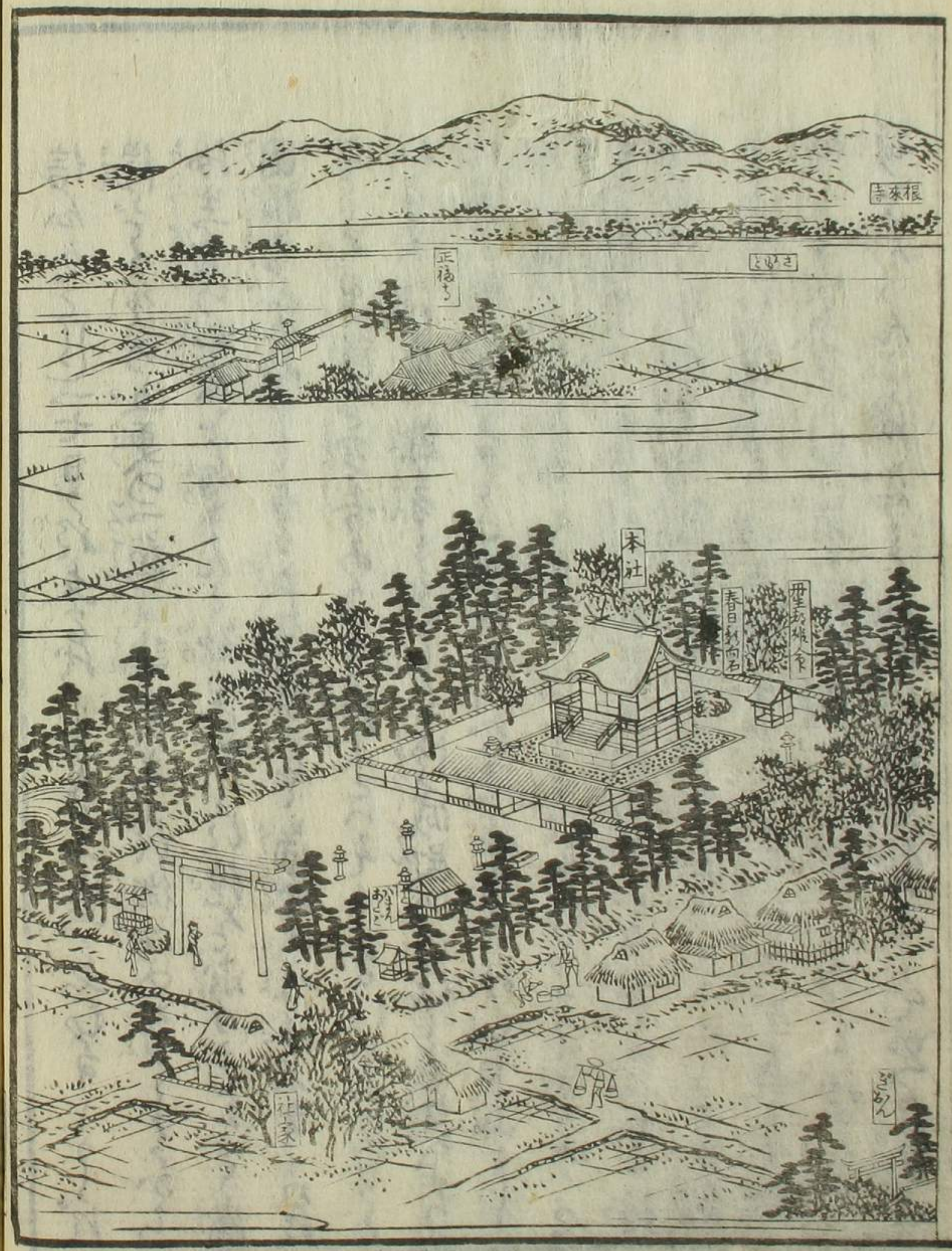
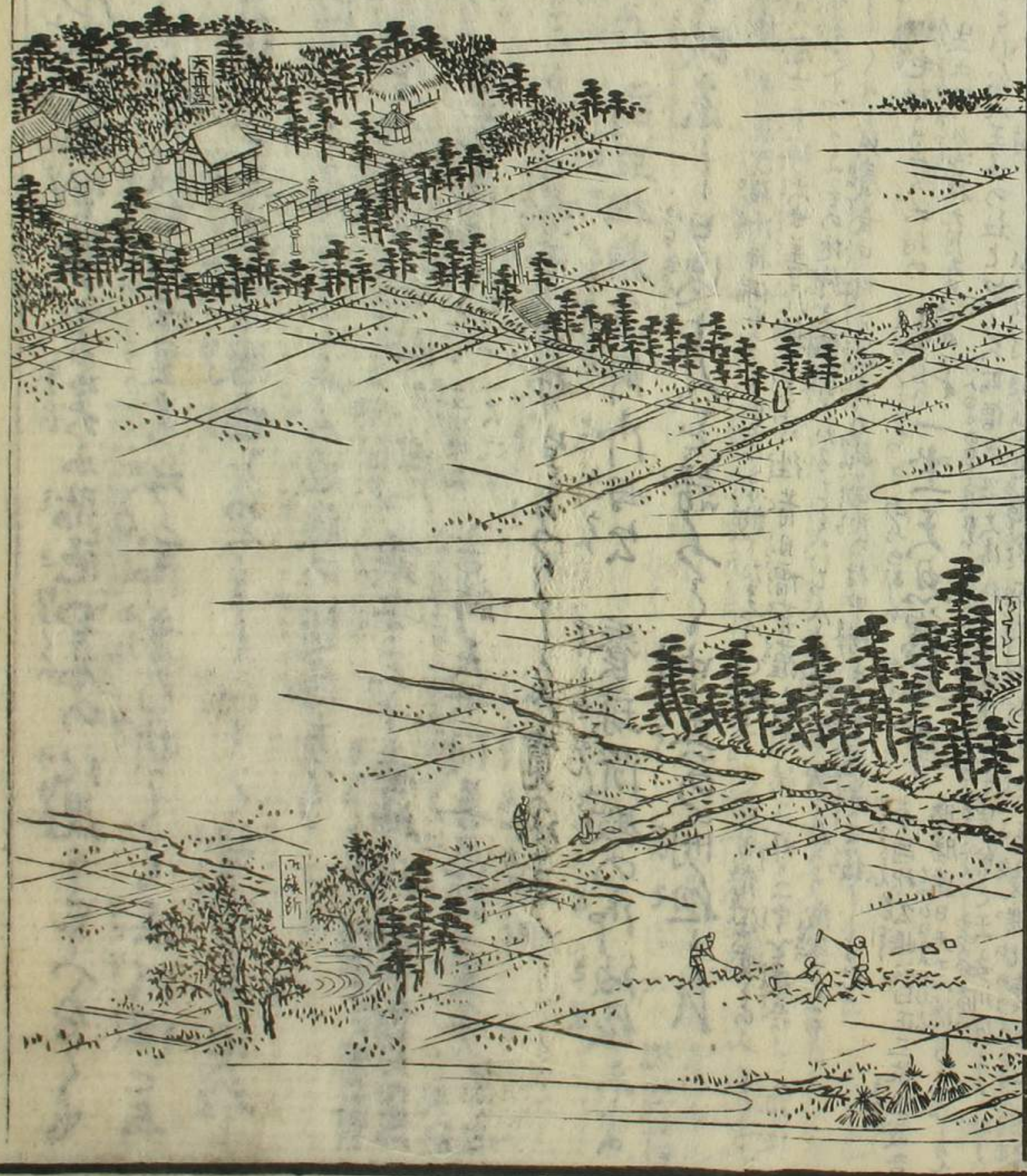


日延島藏王権現
 山王神社
 栄福寺
 關仙伝心
 木下岡
 洛蝶夢
 若山 鴨楯
 村山
 王山
 山王
 村田寺
 新田寺
 揚社
 日延島藏王権現
 山王神社
 栄福寺
 關仙伝心
 木下岡
 洛蝶夢
 若山 鴨楯
 村山
 王山
 山王
 村田寺
 新田寺
 揚社

今や... 村田... 揚社... 山王... 栄福寺... 關仙伝心... 木下岡... 洛蝶夢... 若山 鴨楯... 村山... 王山... 山王... 村田寺... 新田寺... 揚社...



荒田神社
 正福寺
 大市姫神社
 茶北
 神前
 紀藩
 紅雲舎
 百社
 茶北



住持の
大蛇
美男
と化
桂女
と
水
中
の
女



後々真教大師上人當らぬありて法幢をたて法雷をともりて
角僊の兆室一山の中央にありと仰べしきむじら
大傳法院

本寺長一丈八尺鳥懸山鳥羽上皇の大金剛薩埵長一丈二尺花鼓美福門院の

右尊勝佛頂長一丈二尺花鼓美福門院の

原當山の奉願真教大師 鳥羽上皇奉く仰願寺なま

えどめ天養元年高野山神建立ありて後百五十八年を歴て正

應元年根本の移と仰奉願真教大師諱は覺賢正覺坊と號

高野のいへ密嚴院を立く住くる是より世の人密嚴寺者

と奉りたる俗姓肥前川藤津の産の産柏原乃帝相武五世の

孫平将門属胤依統平次兼元の弟三乃子あり

橋氏ありけるは後侍の御仁和寺成就院寛助大僧云々は

志くねんといひて思法沙をてける者瓜や南都ぬ老い

俱舎唯識瓜窺瓜の華嚴法相をまふたる春日八幡慈野

たつのの神不護持をするとあをと祥瑞多又弘法大師早く

寺まつるん瓜中ゆふがなまよの天養元年十六歳

いへ寛助大僧正ゆとく新修深夜とく沙休戒瓜け十八

契印兩部の大法を衣法とあゆひる瓜保安二年九月廿一日成終院

の道場をとく西部の権頂をうけたるとく瓜眉見とる白先瓜

とあら堂肉をてて瓜法え羊永尋阿闍梨の勤めらて真隆の

志願堀起と瓜傳法院を建て傳法大會瓜執行と密教と

恢弘羣生瓜利濟せんと瓜因と東寺み寄寓と縮行明

神みりとあつら心林の苦瓜ありと瓜堂あめつらなまとら

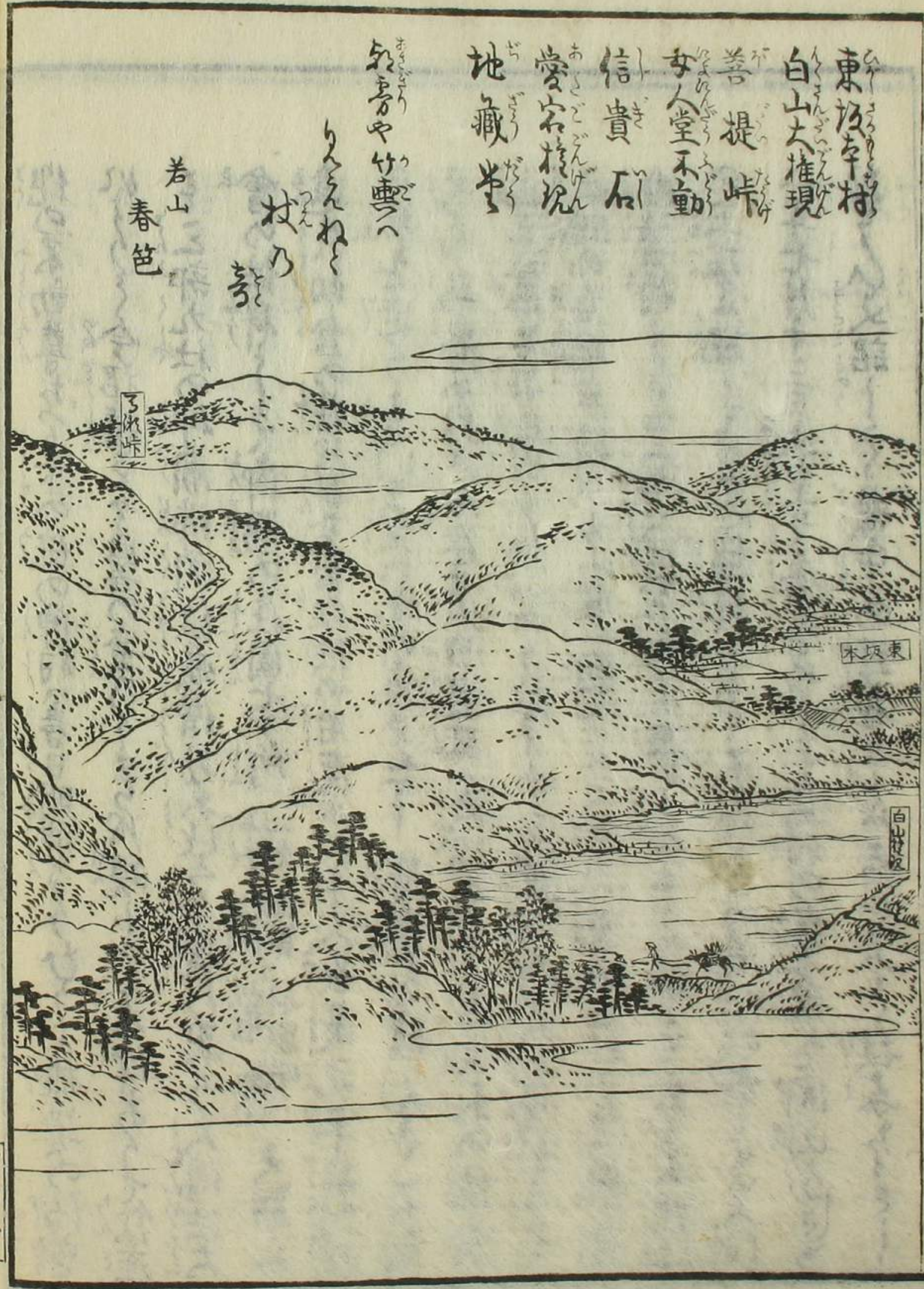
芳野川の辺りいく岩手の莊券を捨ひけく遺者と信入て

瓜たまし券主者のころと瓜感して岩手の莊瓜と

若み寄附とる是羊根来瓜相とく伽藍と建んと

欲し先一祠を名手のたぬ宮とし日本國中大小の神祇一
千餘社を勸請し二部権現と崇めしりて以鎮護と
しは白権現像をあつて吾上人の善願を隨喜し
影のつくまごの衛護と宣ふるまよるまご別根來山
の巽のゆりた一廟をうゑて崇まりて大治五年花藏院聖
慧法親王を跡ふみ詣りたまはる宮奥のすか聞やて
鳥羽上皇へ差書あり院とあつて勅し神願寺と傳法
院日ゆりてかまの尊勝佛頂を奉置し学侶二十六人と
並ほ小傳法院とありてありて校溢ゆりて大會と
ありて難く山更ぬ養しと傳法院をとりて十月十七日
法密嚴日ゆりて落慶と曼荼羅供養を設けは日上皇臨幸
きたりて夜かへて大傳法院ゆりてありて傳法大會あり
其密嚴院いそ者常居の室ゆりて本尊に弘法大師神

他の不動尊あり下の院の神祇春日明神ありむり擁護の約あり
ゆりて今招請とる警の童りて瓜現とて未降ありて能産
と二部九社の神廟佛閣經藏僧坊ありて建たありて大傳法大
會の供料とて神賜の莊園七ヶ所 石手 松田 山寺 岡田 又別み
遠及初倉の莊園曼荼羅供の用度ありて長養元年能産
の珠を造りて多門天王のまもりて寶珠をばんとて不動
の鳥羽めねたまはるは宝珠と大治のまもりて大ねの信貴
ゆりて身護のまもりて二顆の宝珠授けり其一顆ありて一顆は兼山ゆりて一顆は自
身護持しりて市入寂のあか根本ゆりてゆりて名手の物社
の玉塚ゆりて緘封しりて不効の厨中ゆりて入
二年七月十三日上皇号者をゆりて鳥羽の寶藏を園田ありて
なすし又詔しりて藏中の所有ありてゆりて授けり



東坂幸村
 白山大権現
 善提峠
 女人堂不動
 信貴石
 夢岩権現
 地藏堂

若山
 春色
 杖乃
 夢

新方や竹雪へ

木坂東

白山権現



其二

大傳法院
 錫嶺不動
 大塔
 光明會坊
 圓明寺
 御影堂







めんとありき者より高野大師手画の等身の像と善
 女新王の画像と二鋪を請ふたなりて持るる寺鎮と
 たまに相國忠通公青龍の感念真福寺の跡也が懺悔八幡
 大菩薩の偈を説く禮拜し上皇白蓮の殿上み生だといひ
 りるるかひく尊者の象内は志ろし召まこ五藏の祀
 觀入るるの賓主ありに現し暗言しるるその餘
 靈瑞をふりて多し長兼二年を十二月上皇詔して傳
 法院の座主より金剛峯寺の座主とす
 可承以大傳法院座主職即為金剛峯寺座主今知行満山
 車被院宣備自今以後承以件院座主即為彼寺座主可令
 檢按一山知行満寺仍供僧所司等中有闕之時座主擇器
 可令定補満山諸德亘美知不敢違戾者院宣如此悉之以
 狀



八日の昧爽元徒等密處に競ひて定軀を拏らんたるは
不動の二像相たるを相議し云本材と肉身と雖體也
は其實を發覺せんといふ矢鏃をのりて像の膝に鑽きたらぬ
血を流し地を踏む尊者此歎し自ら髪をあけてたまに奉尊
なるを過すか餒といふあり免れ角も斗て定瓜出せたる元徒
本像の血滴たる瓜を身の毛にさらしてさる者の懐威に依て
敢て抵觸するものありさる者明き瓜荷負し根をみあひて
なすの數百の清衆皆さる者みまごう根をみゆる今密處の
奉る瓜雖體不動と稱するは是ちう此の像の本法大師彫
刻し東寺の西の院に安置するをさる者東寺に寓宿て
手自に像に拏刻する美福門院聞召奉り摸るの二像を宮
中みむ之禮終供養し摸像瓜東寺へ奉像を密處院へ送
送せたる其摸像現み東寺にあり寺衆の暴惡を天聽よ

達し巨彌宗玄信覺玄ホ二十六人を捕へて三衣と脱しあ
俗めし遠き配流し兼賞ホの廿余人はさる者の弟子と
て薪水の役を勤むだし誓紙をとりて罪と謝するものにて
二百九十九人満山の僧侶州のごく盡れ依るに於て上皇
尊者み勅し野にみしむさる者考し日愚昧之徒
於一昧法海抱彼此別執ふ可輒示化根來山者役優婆塞經
の之靈蹟形勝不多滅野峯所以自大治初豫岡基趾伏望在斯
勝壤水激禪波奉初室壽天長國家地久も勅して免許せり
淨侶もさる傳法院に住し春秋の大會合山の諸規
奉のごく執りいなる根本圓明寺を創建し上皇命し市
願寺と名する佛塔神祠經藏僧坊等數十區を造る永治元
年百日の回求聞持の法を修りする結願の日向人の山に五百
の佛面地より涌出る其所をめぐり求聞持のこもたま

五百佛の... 常々田月寺の西廂に坐して... 堂前の善徳竜王の小池あり
夕月輪水上に現れり... 浄弟子達本版に摸して
とて康治二年三月十九歳七月廿八日たらまら凡の... 者曰生れ世常
なす大衆を勝多羅尼を満平愈を... 者曰生れ世常
くより誰より免まん只速疾成佛を... 二月十二日
圓明寺の西廂に結跏趺座し手に秘印を... 口を密咒に
誦し彈定め入りて... 息絶れ生後四十九歳
に縁の薪たららむらに... 五時の説き満るるを傷み
度の船を... 雙林の野に先達... 山鳥樹
啼く別離の... 副嶺松嵐に... 哀動の声をたて

雪玉集

徒衆あまうとく號哭し緇白をせりて... 入滅をうか
あぬ... 者へ... 大上根來寺縁記
大意云

天文二年四月廿日大鳥の社信田の... 取もあつて
つらの... 社のあつて... 根來より
迎ひ... 馬二足... 人のある... 食菴湯
の... せたり思ひ... 侍ま... かの寺の
十輪院... 當時一山の字頭碩字の... あり
坊ゆき... 灌頂をた... 後朝の... けい
弟子の實相院... 坊ゆき... び... 一の空内... 怨
角して根來... たり... 衆徒十人あり... あり
てむ... あり... 旅の... けい... あり
あぐ色代... あり... 大門の... あり

右 前中納言太真公御寄附
其餘繪木佛像佛具世具珠器等奉尽し了

○住古堂塔大概

大塔 五間 置高十八間 本尊金六日如來 長三尺四寸五分
大師堂 三間 御影本像 長三尺 不動堂 二間 置瓦龍 經藏 二間
阿弥陀堂 三間 鐘樓 中門面五間 持國天 穀屋 湯屋

右大傳法院境内あり

錐鑽不動堂 五間 置八角作 本尊不動明王 長四尺六寸 樓門
求聞持堂 三間 多寶塔 三間 經藏 二間 地藏堂 長三尺四寸
春日社 下院 拜殿 鐘樓 穀屋 毗沙門堂 天満天神

右密藏院境内あり

御影堂 面十七間 中尊覺鑊御影 長三尺五寸 左脇相應不動
右脇尊勝佛頂 二部推現 擡皮蒙 卒表家種字

伊左祈曾社 御藏 鐘樓 樓門 中三門 透前六間

右圓明寺境内あり

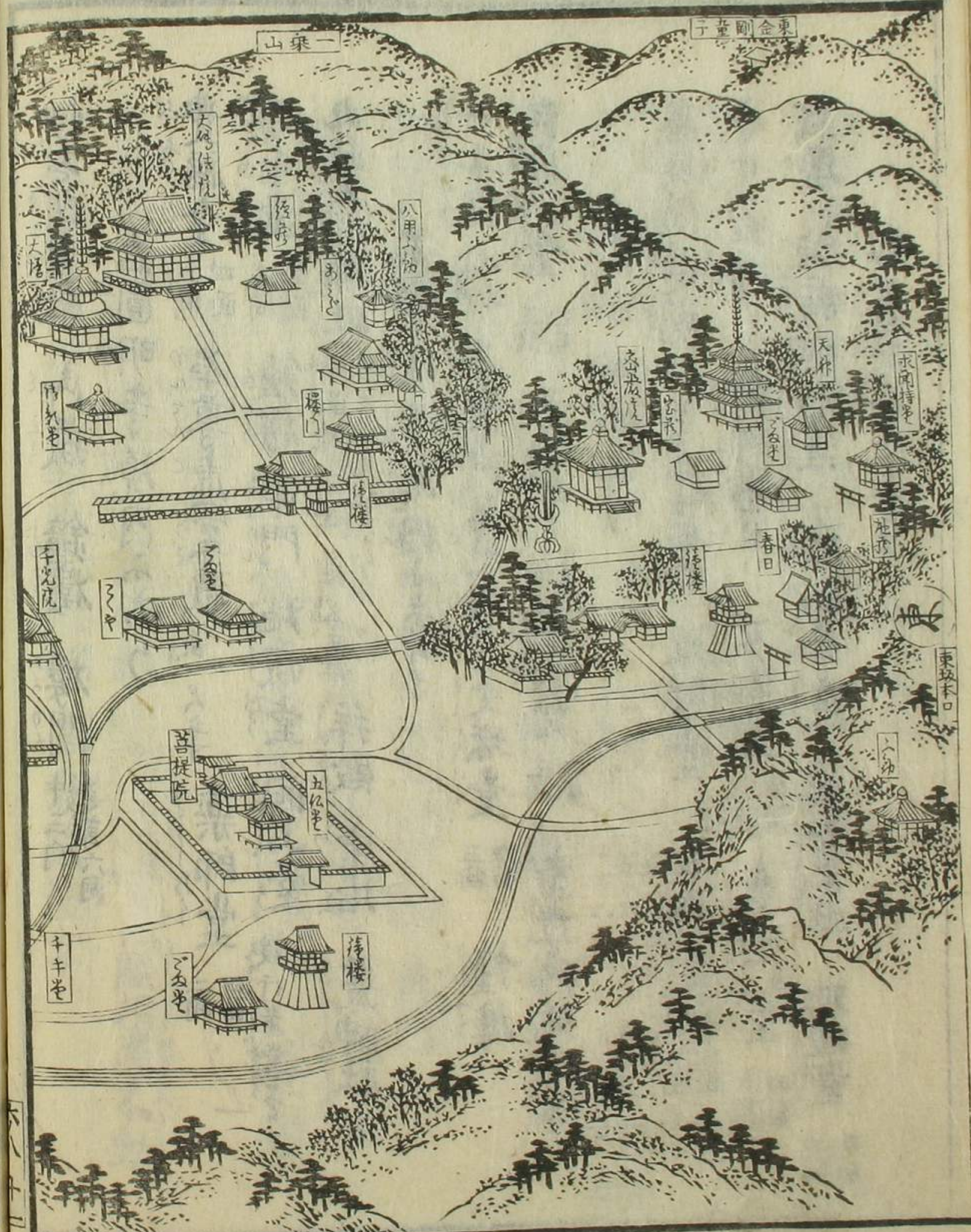
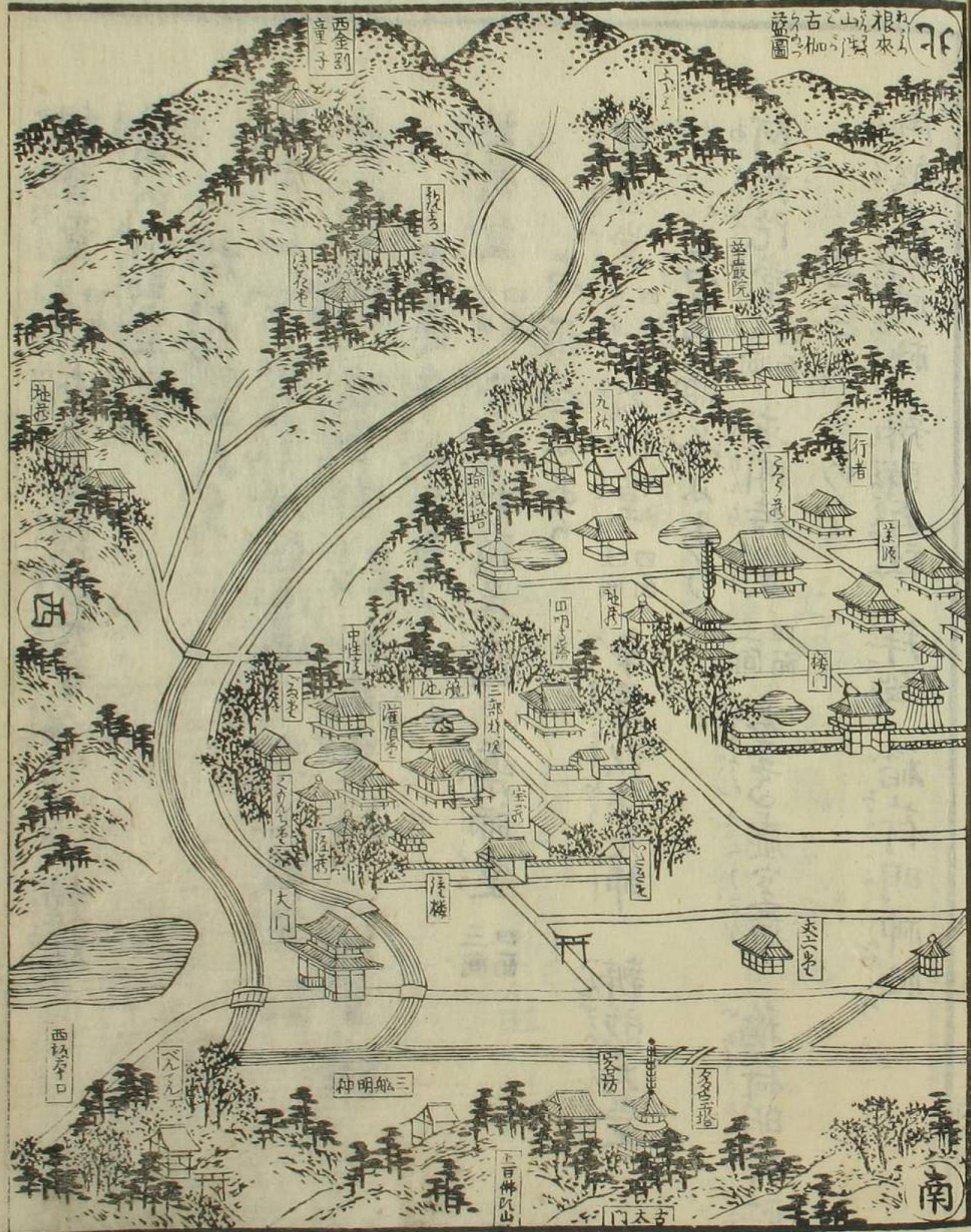
豐福寺 五間 本尊志空藏 長尺五寸 藥師堂 三間
千手堂 三間 鐘樓 中門 地藏堂 閑山堂 役行者堂
九社大明神社 御正峰 三社 一社 各三社 拜殿 宝塔 荒神社

右豊富寺境内あり

千手院 三間 本尊阿弥陀佛 文珠堂 三間 鐘樓
毘沙門堂 三間 不動堂 三間 大六堂 三間 本尊阿弥陀佛

右小谷あり

菩提院道場 護摩堂 五智堂 五佛堂 横三間
本尊五佛 辨財天堂 不動堂 毘沙門堂 三間
穀屋 稻荷明神社 閻伽井夷 辨才天社 地藏堂 三間
右菩提谷あり



観音堂 三間 本尊馬頭観世音 長三尺一寸 鐘樓

八角の不動堂

右大谷あり

五寶堂 三間 本尊阿弥陀佛 虚空藏堂 三間

薬師堂 三間 観音堂 三間 地藏堂 三間 大師堂 三間

右蓮華谷あり

地藏堂 三間 本尊地藏菩薩 薬師堂 三間

右西谷あり

観音堂 三間 大師堂 三間 本尊弘法大師 辨財天堂

右菖蒲谷あり

阿弥陀堂 三間 求聞持堂 三間 本尊虚空藏 稻荷明神社

右二岡あり

御船大明神社 辨財天社 拜殿 稻荷明神社

右前山あり

一山境内 南十一町半 西十二町 大門 大橋 大門地

番屋坂 未申あり 下馬 成美あり 百坂 東金剛童子

菩提峠 辰巳の不動長一尺一寸 覚鉾上人の所

两学頭

妙音院 和州長谷寺に移す 智積院 京師東山あり

月輪院 小谷 教應院 小谷 修学院 前山

釋迦院 前山の 惣持院 大塔の 理趣院 前山

抑閑山興教大師高野あり 天養元年大傳法院建立

ありて金剛峯寺大傳法院兩勅願寺の座主あり 任下なり 其後

保延元年春兩寺の座主職を持明院真誓阿闍梨へ譲り

隆海あり 相續く座主職に任じ 学頭 宝生房 教尋あり

曜覚房 信惠あり 等満の座主 学頭 尤も 岡山大師の門葉

ゆく相續し本をりる百五十餘年を經くのち中性院頼瑜法
印学頭たりとて天朝を養ひたりて正應元年戊子の春傳法
密嚴二基瓜根本らみ引りてその傳法流方の大衆ありて
きつるにやると根本寺大に繁榮たりたりとて建武乙未武
百餘年世間靜たり軍卒の狼藉隘妨甚しとて山に行人の徒
甲冑をもちて兵村と擡つて山寺を守護と學侶のち道瓜
終て世を遠とてちたけとて行人非學のともぐら加執甚
きく後ゆ都ら他の地を奪ひ人の境を侵す其魁二四人所謂
專識岩室阿伽井杉の坊あり各百千衆を率て威後軍
將のてく大坂の命ゆ従りて依て去十三年二月廿一日
佛岡作坊ありて二千七百餘宇一時み灰燼とありぬ大傳法院
下廓に此災を免たり瓜京師紫野の文藏司とて人豊天岡人
たぬりて寺瓜毀ち奉尊むとて材本多を船積りて淀川を

別のむせり其後慶長京兆尹板倉伊勢守聞て文藏司を呵責し
根來送りてむる耐奉尊三休根來へおろし返りたり材
本ありて大坂の棄れとて朽敗たりたり慶長のころ流す
丸京たま幸長干時命して根來山の四至傍示をいし山林濫伐
を禁止元和九年國祖南龍院殿彦坂氏命して法度
とてめ東西の坂をいし制れをうけ下馬たり下乘の本牌瓜
立ちせたまふとて行人を割據血腥の固執ありて除く數年山
中穩ありとるまは實曆元年國君大惠院殿たま野氏
日向年命して行人を瓜逐ひとて蓮華律衆兩院をいし
兩卒頭と定めとて二十石瓜寄て僧厨を資たりとて根
嶺再直り此君のちうに依たり嗣君菩提心院殿先考の御
ころご瓜續く衆僧をいし國家の安全をいしとて又
常光明會の大婦人清信院禪尼との御願ありて法智積院

僧正運敬 此山山名必山名前山山名の築築る善善徳院院名の跡跡に小堂小堂を構構へて岡山岡山大
 師師の宝塔宝塔を安置安置しをりしより何何となく奥院奥院の清廟清廟所所といひ
 けしめぬともえよりの清廟清廟所所の墓山墓山の麓麓にその跡跡のありけ
 る寛政寛政十の年前年前の小池小池坊僧正法住 坊僧正法住 坊僧正法住 坊僧正法住 坊僧正法住
 を築築た清廟清廟塚塚と称称しとん終終つて大傳大傳法院法院再建再建の事事と
 國君國君の啓啓 前前黄門黄門公公 大真大真公公 隨喜隨喜褒褒称称しとる資資貨貨若手若手を
 たり入入法嗣法嗣運運卒卒院院法法忍忍僧正僧正先師先師の遺命遺命を續續く常常光明光明
 真言堂真言堂に造建造建あり 黄門黄門閣下閣下常常光明光明真言真言殿殿の扁額扁額
 と手書手書し賜賜ふまゝ 清信清信禪禪尼尼公公の柵房柵房南室南室に移移え
 庫裏庫裏厨屋厨屋をあへ建建け傳傳法法密密叢叢の材材木木にありて神社神社
 佛佛舎舎僧房僧房等等つめへの輪輪窓窓を復復せんとはねがひはねがひ淨餘淨餘の造像造像
 堂堂塔塔のつめをめぐりしつて文化文化の五年五年にありしと
 り聞聞はく侍侍ををりし書書ありしとあり

櫻樹

岡山岡山大師大師手手に
 栽栽たす人人の傳傳也

こころを那那むつしけちる老木老木のうも

る桜桜みまうしを母母のしるさう

碑陰

文化甲子春三月

塊亭塊亭翁翁若冠若冠の頃頃 常明常明僧僧の偈偈 真言真言の密密旨旨授授けり折折りて當山當山懐懐旧旧の句句
 をくせし後後に即即興興の句句ありしと題題を後後してりしと不不朽朽の事事なり

府下 門人 津守某
 江と名道之

紀伊國名處圖繪卷之六下終

寛政八年八月官輸上准

文化九年二月海宇發行



若山 高市志友編述

雕刻姓名

浪華 武内華亭刪訂

四之卷上 京都井上治兵衛

西邨中和圖画

四之卷下同 同

京師

渡邊玉壺齋書

五之卷同 樋口源兵衛

文化九年壬申正月

和歌山

製本書林

浪華

帶屋伊兵衛

河内屋太助

大日本國郡全圖

彩色摺箱入

全二冊

此六十余州の全圖ハ一ハ徑國の大業小志ある人をして地の理を知
 る或ハ遊歴の客廻國順拜の人々勝槩古跡を探り神社佛閣を
 尋ふ必用の書小比年東嶽翁の撰小比年の志海内小比年せん
 を計り累年の工夫を以て終小大成せり其各國の郡縣村落山
 河小比年中心畫く着色を以て分ち一覽を小易く其分明なる事
 恰も暗中小燭を得たる小掌中を照らすごとく詳小く乾坤を知
 事眼小下り歴然と一々寔小こと一奇書ありかの仙家縮地の
 術も是の小及きつゝ小戸を出せり天下を去るとり古
 語も嘗て此冊子の為小以ふる者

書肆

尾州名古屋本町通七丁目 永樂屋東四郎
 江戸日本橋通本銀町二丁目 同 出店

甲村

五八十六 甲村

